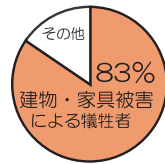


# 1.家

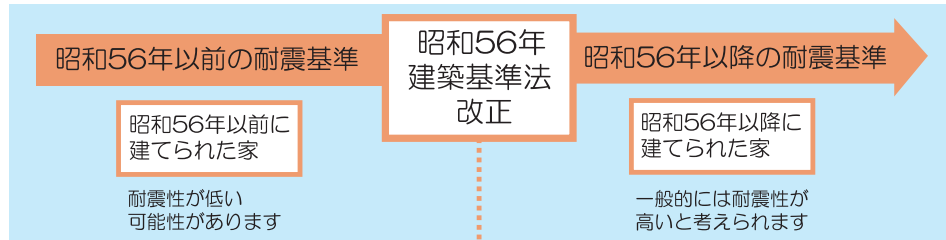
自分の家を安全な場所にしましょう！

阪神・淡路大震災で地震発生後2週間以内に亡くなった神戸市内の方の死因をみると、建物や家具の被害によるものが約80%、しかも大半が地震後15分以内、レスキュー隊が到着する前でした。家を安全な場所にすること、これが「命を落とさない」ための大事なポイントです。

参考：西村明儒・井尻巖・上野弘弘／へるす出版「救急医学別冊」平成7年



自宅の耐震性の目安になるのは、「新耐震基準」が設定された昭和56年です。



自宅がいつ建てられたかを確認しましょう！

## 賃貸住宅にお住まいの方

建築年が昭和56年以前の場合は、耐震性が低い可能性があります。建物管理者に耐震性を確認しておきましょう。また、今後の引越しの際は耐震性を考慮して物件を選びましょう。

## 分譲住宅にお住まいの方

建築年が昭和56年以前の場合は、建物の耐震性を点検し、必要に応じた耐震補強を実施する必要があります。マンション管理組合等に確認しておきましょう。

## 木造一戸建て住宅にお住まいの方

自宅の耐震性を確認しましょう。一般的な木造一戸建て住宅について、誰でもおおよその目安がつけられる耐震診断法があります。

参考：(財)日本建築防災協会ホームページ（誰でもできる我が家の耐震診断）  
<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wagaya.html>

詳しくは、お住まいの区市町村の防災担当課に相談してみましょう。（耐震診断や耐震補強の相談・助成を行っている場合があります）

# 2.部屋

安全なスペースの確保は災害時だけでなく子どもの事故予防にも役立ちます。

揺れても家具等が倒れてこない安全なスペースはどこですか？  
子どもとあなたは普段そこにいますか？

## 部屋のレイアウト

居間や寝室・台所など、子どもとあなたが長く過ごす部屋のレイアウトを書いてみましょう。

安全なスペースを囲んでみましょう。

↓チェックしてみましょう。

<input type="checkbox"/> 転倒防止 <p>背の高い／重い家具を固定しましょう。</p>	<input type="checkbox"/> 飛び出し防止 <p>荷物用「持ち手」 輪ゴムの束</p>	<input type="checkbox"/> 落下防止 <p>鎖等で固定しましょう。</p>	<input type="checkbox"/> 飛散防止 <p>ガラスにフィルムを貼りましょう。</p>	<input type="checkbox"/> テーブル補強 <p>耐震足 テーブルの強度を高めることができます。</p>
<input type="checkbox"/> 通路 <p>玄関までの通路に倒れそうな家具はありませんか？</p>	<input type="checkbox"/> 非常持出袋 <p>すぐ持ち出せる場所に置きましょう。</p>	<input type="checkbox"/> スリッパ・靴 <p>ベッドのそばに！</p>	<input type="checkbox"/> 風呂水について <p>小さい子どもがいる家庭では、おぼれによる事故を防ぐために風呂に水をためないようにしましょう。</p>	